



イレトコシ・アラフアバー  
黒真珠作戦  
豊田有恒  
徳間書店（新書）  
（12/31刊・¥680）

『黒真珠作戦』は、愛甲俊介を主人公にした冒険シリーズ、計四中篇を収めた作品集である。表題作は、フィリピンを舞台に、モロ民族解放戦線に誘拐された、かつての親友の育ての親である神父を追う話。「雪嶽山作戦」は、韓国の寒村に侵入した、北朝鮮スパイを捜す話。「ケツァルコワトル作戦」では、グワテマラで行方不明になった幼なじみを捜索するうちに、古代マヤの末裔に出会う。集中もつとも長い「モンゴリア作戦」では、モトクロスバイクの指導で中国に渡った主人公が、やがてモンゴルに作られたソ連基地の秘密にまき込まれていく、というもの。

スパイアクションとあるが、主人公は本職のスパイではなく、自衛隊出身の戦記ライター。そのため、どの話も巻き込まれ型である。「黒真珠——」や「雪嶽山——」は、ややアクションに不足しているが、もともと作者の意図はアクションだけにあるのではなく、冒険小説風の国際政治（とでもいえるもの）にもあるようだ。中では、やはり最長の「モンゴリア——」が、冒険的要素と外モンゴルの描写がバランスよくまとまっております。一番面白く読めた。